

令和5年4月13日

厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 御中

一般社団法人 日本口腔衛生学会理事長
公益社団法人日本小児歯科学会理事長
特定非営利活動法人日本歯科保存学会理事長
一般社団法人 日本老年歯科医学会理事長

う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法【普及版】の周知について
(依頼)

歯科保健対策の推進については、日頃格別の御高配をいただき厚くお礼申し上げます。

このことについて、別添のとおり、一般社団法人 日本口腔衛生学会、公益社団法人日本小児歯科学会、特定非営利活動法人日本歯科保存学会、一般社団法人 日本老年歯科医学会において、「う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法【普及版】」をとりまとめました。

つきましては、国民の口腔衛生状態の益々の向上のため、各都道府県行政を通じて広く御周知くださるようお願いいたします。

う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法【普及版】について

2023年4月13日

一般社団法人 日本口腔衛生学会

公益社団法人 日本小児歯科学会

特定非営利活動法人 日本歯科保存学会


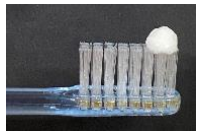

一般社団法人 日本老年歯科医学会

日本の子どものう蝕は経年的に減少傾向にあるが、その罹患率は他の疾患と比較しても高く、また成人では約3人に1人が未処置う蝕を有し、高齢者ではう蝕経験者は増加している。

う蝕予防のフッ化物応用は75年以上の歴史で安全性と有効性が繰り返し確認されており、中でもフッ化物配合歯磨剤は日本で広く普及している。フッ化物応用の研究のアップデートや、市販歯磨剤のフッ化物濃度の変更、国際的な推奨の更新を受け、日本のう蝕予防および治療を専門とする4学会合同で、現在の我が国における推奨されるフッ化物配合歯磨剤の利用方法を「4学会合同のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法」としてとりまとめ、本年1月に文章を発出した。今般、その普及版として、一部改訂し、著作権フリーの写真を使用したものを作成したので、活用いただきたい。

う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法 (2023年版)

日本口腔衛生学会・日本小児歯科学会・日本歯科保存学会・日本老年歯科医学会

年齢	使用量(※1)	フッ化物濃度(※2)	使用方法
歯が生えてから2歳	米粒程度 (1~2mm程度) 	900~1000 ppmF	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・900~1000 ppmF の歯磨剤をごく少量使用する。歯みがきの後にティッシュなどで歯磨剤を軽く拭き取ってもよい。 ・歯磨剤は子どもの手が届かない所に保管する。 ・歯みがきについて歯科医師等の指導を受ける。
3~5歳	グリーンピース程度 (5mm程度) 	900~1000 ppmF	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・こどもが歯ブラシに適切な量の歯磨剤をつけられない場合は、保護者が歯磨剤をつける。
6歳~成人 (高齢者を含む)	歯ブラシ全体 (1.5cm~2cm程度) 	1400~1500 ppmF	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・チタン製歯科材料(インプラントなど)が使用されていても、自分の歯がある場合はフッ化物配合歯磨剤を使用する。

- 乳歯が生え始めたら、ガーゼやコットンを使ってお口のケアの練習を始める。歯ブラシに慣れてきたら、歯ブラシを用いた保護者による歯みがきを開始する。
- 子どもが誤って歯磨剤のチューブごと食べるなど大量に飲み込まないように注意する。
- 要介護者で嚥下障害を認める場合、ブラッシング時に唾液や歯磨剤を誤嚥する可能性もあるので、ガーゼ等による吸水や吸引器を併用するのもよい。また、歯磨剤のために食渣等の視認性が低下するような場合は、除去してからブラッシングを行う。またブラッシングの回数も状況に応じて考慮する。
- 水道水フッ化物濃度の低い日本では、歯磨剤に加えフッ化物洗口やフッ化物歯面塗布の組合せも重要である。
- どの年齢でも、歯みがきについて歯科医師等の指導を受けるのが望ましい。

※1：写真の歯ブラシの植毛部の長さは約2cmである。

※2：歯科医師の指示によりう蝕のリスクが高いこどもに対して、1,000ppmFを超える高濃度のフッ化物配合歯磨剤を使用することもある。